



『神が教えて下さる平安への道』

説教者: 鄭南哲牧師

本日聖書の本文:ピリピ人への手紙4章4節-7節/ 暗唱聖句:ヨハネの福音書20章19節

愛する信仰の家族のみなさん!2024年!新年あけましておめでとうございます!今年もどうぞよろしく願いいたします。本日は2024年初の主日新年感謝礼拝です。願わくは、今日から始まった今年中も52週間の全主日礼拝を通して、神のご臨在の中、神が与えて下さるたましいへの安息と平安に満たされ、新しい力を頂き保って、今年最後の日まで進み行けるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます!

愛する CPC 信仰の家族のみなさん!みなさんはお正月休み中にはいかがお過ごしでしたか。今日本では執り成しの祈りと愛の助けがとても必要な時ですね。

まずは、本来今日は今年初の一週目の礼拝なので、聖餐式を執り行う予定でしたが、体調不良で礼拝を休む教会家族が多い為、一週間延期することになりました。教会の子どもたちや家族の健康と回復の為祈りましょう。また、年末に一時帰国されたまゆみ執事と満名姉は本日礼拝の後出発し、デュッセルドルフへ戻る予定です。向こうへ無事到着出来るように、引き続き川副ファミリーの為にも覚えてお祈りを願います。

何よりも、すでにメディアのニュース等で、心を痛めつつ祈っておられることと思いますが、元旦お正月16時10分に能登半島沖の日本海を震源とする M.7.6、最大震度7の大きな地震が発生し、能登半島を中心に甚大な被害が報告されています。多くの被害者が出ている中昨日まで、120以上の死者が出ていて、まだ、連絡が取れず安否が分からない人は222人に上っています。避難所生活をされている方々が、約3万733人が身を寄せている中停電や断水も続き苦しんでいます。

これ以上大きな地震がないように、寒さの中で避難されている方々の安全と健康、愛する家族や町の人々を失って大きな喪失感や余震による恐怖、これからの生活に対する不安な心を持っていらっしゃる被災地での方々の心が守られるように、寒さの中で救助、救出、支援活動をされている方々のために覚えて祈りましょう。教団からも全国の教会に支援募金を緊急お願いしつつ、力を合わせて被災地への必要な支援が少しでも届けることが出来るように準備しています。本日役員会での会議をとして我らの教会もどうするか具体的に支援の方法を決めたいと願っています。みな様のご協力とお祈りを願います。

<1. 神様が与えて下さる真の平安と平和(PEACE) !>

イスラエルの人々は今日も“シャロ-ム(Shalom)”というあいさつをよくしています。‘あなたに神様の平安(平和)があるように!’という意味でしょう。数千年経っても、いくら環境が変わり、時代が変わっても何よりも人は、平和と平安を切に願い、求めているサインではないでしょうか。それほど、この人の人生の中で、この地上では、争いや災いが続き、恐れ多い、不安だらけの人生だからでしょう。

ですから、昔の人々も、今日の私たちも同じようにいつも平和の関係と心と生活の平安を何よりも願いつつ、求めていると信じます。その意味で、まず、新年今となりの人と‘シャロ-ム’とあいさつをまわしましょう。(平安、平和(ギリシャ語の聖書には:エイレイネ)は英語聖書:全部 peace で使われている)

「神は混乱の神ではなく、**平和の神**だからです。(コリント人への手紙第一14章33節)」

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。『平安があなたがたにあるように。』20こう言って、イエスは手と脇腹(わきばら)を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。」(ヨハネの福音書20章19、20節)

復活の日の弟子たちの姿を思い巡らします。よみがえられたイエスキリストと再会するまで、イエス様の弟子たちは扉を閉じ、鍵をかけ、部屋の中に閉じ籠もっていました。彼らの心もまた恐れと不安の中で閉ざされていたことでしょう。しかし死に打ち勝ってよみがえられた主イエス・キリストはその真ん中にお出でくださいました。そして弟子たちにご自身をあらわし、「**平安があなたがたにあるように!**」とってくださいました。

復活の後、イエス様がエマオという村に行く道で落胆している弟子たちに会った時にもまず、“あなたがたに平安があるように”と言われました(ルカ24:36)。イエス様は十字架につけられる前夜、弟子たちに御霊を約束しながら平安の祝福を与えます。

どうか本日も礼拝に集まっている愛するクリスチャンプレイズ教会の兄弟姉妹おひとりひとりのもとに、特に今も被災地で苦しみ、悲しみ、恐れと不安の中にいる方々にも、よみがえられ、今も生きておられる復活の主イエスキリストがお出でくださることを信じ、心から待ち望みます。そして、お一人お一人の上に神の平安を与え、不安や恐れ、複雑な心、思い煩いの心のうちを覆ってくださいますように切にお祈り申し上げます！

イエスキリストの約束されたヨハネの福音書14章27節を心に刻み、覚えておきましょう。

「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がしてはなりません。ひるんでは(恐れては)なりません。」

「(エペソ人への手紙2章14節)キリストこそ私たちの平和です。二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々が信じている神様こそ、真の平和の神様であられ、イエスキリストこそ、我らの人生の壁を打ちこわし、分裂され、遮断され、切り離されてしまったすべての関係を和解させて下さって、神の真の平和と平安を与えることが出来るお方であることを聖書は教えて下さっています。

「しかし、御霊の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」

(# 平安・平和(ギリシャ語の聖書には:エイレイネ)は英語の聖書だと全部 **peace** の意味で使われています。)

御霊の実である平安、平和というのは変わる事のないことを意味します。人からの単なる情緒的な落ち着き、安心な心の状態ではありません。御霊の実として、与えられる神からの平安なのです。私たちの感情的な安定ぐらいの程度のもではなく、人によるぐらいのものではありません。力があります。希望と確信をもたらし、自分自身と他人と平和の関係を保ち、また、平和を作るかけ橋の役割を果たします。神様からの平安は人による関係の葛藤と悩みがあっても、むしろ、自分自身が頂いた神の平安によって、その人たちとも平和の関係を保ち、平和を作り、変える力があるのです。

始まった新年にはさらなるキリスト・イエスにあるこの豊かな平安が子供たちの心のうちに、お一人お一人の上に、ご家庭の上にもますます豊かにありますように！復活の主の平安が満ちあふれますように！切にお祈り申し上げます。

聖書を読んでいると、我らが艱難の人生、恐れ不安の状況の中であっても保つべき生き方はまさしく“平安の生き方”だと示されています。

<2. 私たちはどうすれば、平安の人生、平和を作る生き方を保つことが出来るでしょうか。>

①いつも平和の君イエス・キリストとの関係をしっかりと保つ必要があります。

今日の本文4節をみると、「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」とされています。

愛するみなさん！どうやって主の平安をいただくことができるのですか。平安の日々、平和の生き方を願っているならば、大切な前提になる条件がここにありました。4節に出ている「いつも主にあって」という御言葉です。

この神の平安の祝福と実をむすぶ、保って行くための前提があります。それは、いつも主にとどまっているときのみ(いつもキリストとの関係を保っている時)なのです。ピリピ人への手紙4章1節だれかが読んでくれますか。「ですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。このように主にあって堅く(しっかりと)立ってください。愛する人たち。」ここでも大切に強調されている部分が、「主にあってしっかりと立ってください。」というところでもあります。神の平安の実が結ばれ、その平安を保ち、全ての関係において平和を作っていく今年一年となるために、イエス様との正しい関係をしっかりと保って生きる時こそ、与えられ体験出来る祝福であると教えて下さっています。

ローマ人への手紙5章1節に、「こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。」

嵐と荒波の中で恐れ、不安の中に弟子たちが、それに流されずに、キリストの平安を保ち、貰われた理由は、単純でした。その小さな小舟にキリストと一緒に乗っておられたからです。嵐と荒波をしかりつけられる力を持っておられたイエスキリストが我らの人生の小舟にいつも一緒に乗って下されるように、キリストとの関係を保つ時こそ、キリストにいつもとどまっている時こそ、我らは、キリストによる神の平安で守られ、生き抜ける一年となることを信じます。

*キリストにとどまっていなければ、平和などの実を豊かに結ぶことが出来ないとイエスキリストは言われました。

ヨハネの福音書15章4節「わたしにとどまりなさい。わたしも あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」

それでは、イエスキリストの中にとどまることは具体的にどうすることでしょうか。

①日々神の御言葉なる聖書の御言葉を心に留め、御言葉に従って生きることです。

ヨハネの福音書15章7節「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」

ヨハネの福音書14章23節「イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」

*詩篇119篇165節「あなたのみおしえを愛する者には豊かな平安があり、つまずきがありません。」

*イザヤ書54章13節「あなたの子たちはみな、主によって教えられ、あなたの子たちには豊かな平安がある。」

②イエスキリストの御名による継続な祈りを通して、様々な思い煩いを取り除けます。

本文の6節をみてください。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」この本文の箇所では平安の生活を脅かす、一つのものがあらわれます。

「思い煩う」ことだと教えて下さっています。思い煩うことがあれば、心の平安は揺るがされ、奪われます。ギリシャ語で「思い煩い」というのは「メリムナ」という単語で、その意味は「心が分かれる」という意味です。そういうわけですので、思い煩えば、煩うほど、自分たちの心は分かれて、分かれて、ますます大切な心が分裂されてしまいます。度を過ぎると、結局精神不安定となり、精神的に分裂のようになってしまうのではありませんか。なかなか人生が思い通りにならない時が多く、そのた思い煩いというのはこのように人の心を分裂させ、破壊するものなのです。しかし思い煩うことによってなかなか問題の解決にはならず、さらに状態を悪化させてしまいます。

そしたらどうすれば、平安の生活、平和をつくる人生を保って行くために、心の思い煩いをどう取り除き、心の中で追い出すことが出来るでしょうか。

今日、聖書ではなんと教えているのか御言葉をとおして答えをさがしてみましよう。6節をみるとはじめに「何も思い煩わないで」という言葉がでます。だから思い煩いを克服するためには、まず、みなさんの心と思いの中に色々な生じる思い煩おうとし、心配していることを中断しなければいけません。その後、思い煩っている心すべてを、祈りの言葉に変えることです。つまり、みなさんの心の中で今思いわずらいがあったとしたら、「あ!そうだ!今の時こそ、祈る時だ!」と思って、イエスキリストの御名によって、打ち明け祈り続けるうちに、心と思いの中に生じる思い煩いを中断し、巻き込まれず、守ることが出来ることを忘れないで下さい。

<3. 思い煩いを取り除く為、具体的にどう祈れば良いでしょうか。>

①感謝を持って祈る

もう一度、本文6節をごらんになりますと、祈る時に、感謝をもって祈るように教えて下さっています。

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いに」

人はいつも自分がだれかにやってあげたことはよく覚えていても、自分が持っているもの、受けたことはすぐ忘れてしまう傾向があります。自分にはないもの、足りないものばかり考えるためなかなか感謝することができません。

感謝は我々に与えられたすべてが当たり前ではなく、すべて神様の恵みとして受け止めた時に対する反応です。

祈る時に大切なのは、全てを当たり前思わず、他の人と比較しないで、神の恵みをして覚え、言い表し、告白することで

です。
ジョン・メイソン(John Mason)は“与えられたことに対して感謝の知らない人はこれから自分に与えられることに対して
も感謝することはできないはずだ。”と言いました。旧約聖書の中ダニエルという神の人は彼の生涯はどんなに脅かされて、
苦しい時でも感謝の祈りを忘れなかった体系的な信仰の人物です。当時、イスラエルの南ユダ王国はバビロンに陥落され、奴
隷としてバビロンに連れられた状況でした。しかし、優秀だったダニエルだったので、奴隷の身分の中でバビロン王に選ばれ、
用いられましたが、そのダニエルをやきもちしたバビロンの家臣たちは、バビロン王に偽りの証言をし、バビロン王ではなく、
神様に祈るなというバビロン王の命令を拒むと、獅子の穴に投げ込まれ死ぬことを知っている危機の状況に巻き込まれたの
にもかかわらず神に祈り、さらに祈りながら感謝忘れなかったと書かれています。「ダニエルは、その文書に署名されたこと
を知って自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角(ほうがく)に窓が開いていた。彼は、以前からしていたよ
うに、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた。(ダニエル書6章10節)」

使徒パウロは「このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。キリス
トのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。(コロサイ人への手紙2章6-7
節)」

なぜ神は感謝を持って祈り、感謝を保つように教えて下さっているのでしょうか。

感謝こそ、祝福の秘訣であり、幸福の秘訣であり、人と良い関係が平安に保つ秘訣となり、逆境を新しいチャンスに変える秘
訣となるからです。イギリスのスポルジョン先生は感謝の言葉についてこう残して下さいました。「不幸である時、感謝すると
不幸が終りになり、順境の時、感謝するとその順境は続きます！」

どんな時にもまず感謝を忘れないで下さい。どうしても感謝ができない時さえも、感謝を見出し、祈りの中で感謝を忘れない
で下さい。すると、神は必ず、その信仰を見て、感謝のできない出来事を感謝のできる出来事に変えてくださいます。
神様は生きておられ、必ず顧みて下さって、この厳しい状況を通り抜けるようにさせ、必ず益として下さるように、さらなる
感謝が出来るように御業を成して下さいます。

「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなった
のです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。(コロサイ人への手紙3章15節)」

②とことんまで根気よく祈り続ける

どんな祈りですか。普通の日常的な、形だけの祈りではありません。新改訳聖書では(祈りと願いによって)だと訳されてい
ますが、ギリシャ語の原文と英語の聖書では祈りと懇願(切に求める祈り)をもって神様に祈りなさいと書かれています。

‘祈りと切に求めること(prayer and petition)’によって神様に知っていただきなさいと言っています。どんな祈りです
か。普通の日常的な、形だけの祈りではありません。‘祈りと切に求めること(prayer and petition)’によって、新改訳聖
書では(祈りと願いによって)だと訳されていますが、ギリシャ語の原文と英語の聖書では祈りと懇願(切に求める祈り)をも
って神様に祈りなさいと書かれています。祈りますが、切に求めることを集中的に祈ること、つまり、懇切に求める祈りを意
味するのです。「神様に知っていただきなさい」と言うことばは、ギリシャ語の聖書本文では、「グノリゾ(知らせる)」というこ
とばの現在受動命令形として、正しく解釈すると、「(一度だけではなく)神に知られるように持続的に祈りなさい」という意
味であります。いつまでですか。神様の平安が自分の心に訪れ満たされるまで、根気よく、続けて切に求めなさいという意味
なのです。自分の思いわずらいが消え去り、神様の平安が自分の心に訪れるまで、根気よく、とことんまでたえず祈り続け、
求めなさいという意味なのです。

<4. その結果何が起こりますか。>

そうすれば、どんなことが起こりますか。7節です。「そうすれば人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と
思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」

ここで、我々がとても注目すべき部分は、神様は私たちが祈れば思い煩っていたすべてがすぐ消えさせたり、すぐうまく解
決せたり約束されない時もあるかも知れません。もちろんある場合、思いもよらなかった不思議な奇跡が起こって問題が解

決される場合もあります。みなさんのまわりにそのような場合もあったと思います。しかしこれは例外でもあります。だいたいの場合は必死に祈ったにもかかわらず、思い煩っている環境や問題その自体はしばらくそのままである時もあるかも知れませんが、**7節**の御言葉によると「**そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。**」と約束されているのです。思い煩う、そのものはしばらく変わらずそのままであるかも知れません。しかし、神様の平安が自身の心と思いを守ってくださるのですから、これからは心配しないで、正しく状況を見極め、判断する力が与えられます。つまり、問題をどうやって解決すればいいのか、正しく判断することができる知恵が**あたえられるのです。**そうすれば、問題に堂々と向き合っていけます。

愛するみなさん！わたしたちの人生はまさに、手におえないものであり、まるで、あらしの海を航海する船のようでしょう。おさまったと思ったら、次は違ったはげしいあらしが襲って来て、わたしたちを倒そうとします。時にはたえないほどの荒波によって人生の船がもうおしつぶされそうです。**どうすれば、おさまった海のようにわれわれの人生に平安を保つことができるのでしょうか。簡単です。自分たちの人生の船にイエスキリストを招き、その人生の船の舵をイエス様にゆだねることです。**人生の船の船長を自分からイエス様に委ねていけば、イエス様は私たちを真の平安の港まで導いてくださいます。

自信と自惚れ(うぬぼれ)とは違います。自惚れている人は自分の力に頼るので、自分の弱さが表に出ることを恐れます。しかし、自信に満ちた人は神様の御力に頼るので、自分の足りなさをそれほど気にしません。自分をそのまま受け入れているからです。それゆえ、不平でなく、平安と感謝があります。必要以上に自分を高めたり、目立とうとしたりしません。他人を助けたり、何かに成功したりしても、むしろさらに謙遜と平安になります。その体表がイエス様でしょう。すべての力を持っておられ、万物よりも上におられる方ですが、弱気人間の姿となってこの地に来られ、神様に徹底して頼る生き方をされました。数多くの奇跡を行われましたが、ご自分を高めることはされませんでした。

このような自身と品格は、学ぶことによって身につくものではありません。イエス様が私たちのうちに住まわれるよう、主に自分自身を差し出さなければなりません。イエス様が私たちのうちにおられるという信仰は、何時においても勇敢さと確信、平安と感謝できる力を与えてくれます。同時にこの世の中で堂々と自身と他の人との関係の中でも平和を保ち続けることができるのはキリスト者の生き方です。

「**自分の関することについては、出来る限り、すべての人と平和を保ちなさい。**」(ローマ人への手紙12章18節)と命令されています。

神からの自身の心の平安だけでなく、隣人との平和をも保ちなさいと言われました。

ただ祈るだけで、終わってはいけません。自分の心の平安、そして周りのすべての人々と平和を保つように仕えます。

イエス様は**マタイの福音書5:9節**「**平和をつくる者は幸いです。その人は神の子供と呼ばれるからです。**」と約束されました。

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！始まった2024年、キリスト・イエスにあって、思い煩うこともやめて、すぐ感謝を持って神に委ねて祈り続けて歩みませんか。すると必ず神の平安のうちに、神の平和の関係を保ちつつ、堂々と生きる一年になると信じます！またクリスチャンプレイズチャーチ信仰の家族我らみんなが神の平和の道具として豊かに用いられるように心からお祈りいたします。

“主よ、大騒ぎ、恐れ、不安、思い煩い、罪深いこの世の中で赦された新しい一年間、どうか、我らが日々御前に感謝と委ねる祈りを捧げることにより、神の平安を頂き、周りの全ての人々と神の平和の道具として大いに用いてくださいますように。我々を通して神の平和の実が豊かに結ばれ感謝が溢れる2024年となりますように、我らに感謝の祈りを続けられる力をもお与えください。平和の主なるイエスキリストの御名によって祈ります。アーメン！”

